

鹿兒島戰記 初号 下



10

15

20

25

篠田仙果録
永島孟齋畫

繪本 鹿兒島戰記

東京書肆 青成堂版

鹿兒島戰記初編下之卷

東京

篠田仙果記

説の虚実へ知りぬと雖も因りて綴せる話ある時鹿兒島の桐野氏の西々氏に向つて四方八方の語のついでに某日ごろ指揮致せし精兵十七大隊を卒し上京せんといわれ果して此度生徒亦が巨魁とありて指揮のし續いて篠原長山村田池上別府の諸上并ふ田島津家の家令たり内田正風いづれも頭取ありるとと一説は西々氏自ら兵を卒し軍配とり出張せりと風説せり尚後の段と合せると一

そとく薩州の人氣なるを勇と好んで死をあれが環細のるかも争論を闘競不及べるの常ありてありしうらげ且從前より兵備あり島津家の直隊と錦虎隊とを三十人桐野氏の組あるへ狙撃隊三千人西々氏の組と玄牛隊とを一万五十人ありとる強壯の壮りの

たり他話へさそあはる私学校生徒ら陸ハ
嶮岨の地と



重なるつゝ海
岸並場なる
所ハ長サ十二三間
とせ四五間あり
土俵より胸壁を
何ヶ所と多くつた

並へ通路と固めて旅人を入とび

鹿見島を根城とすぬ然るにうねて

通ちたるや但し生能が暴挙の沙汰と

疾くも傳聞るせしと

日向國の宮野司の

士族へ鹿見島

の暴徒方へ小銃

弾薬を送り久留米

への鹿見島暴徒救百名

入るゝ柳川の士族ホも志接

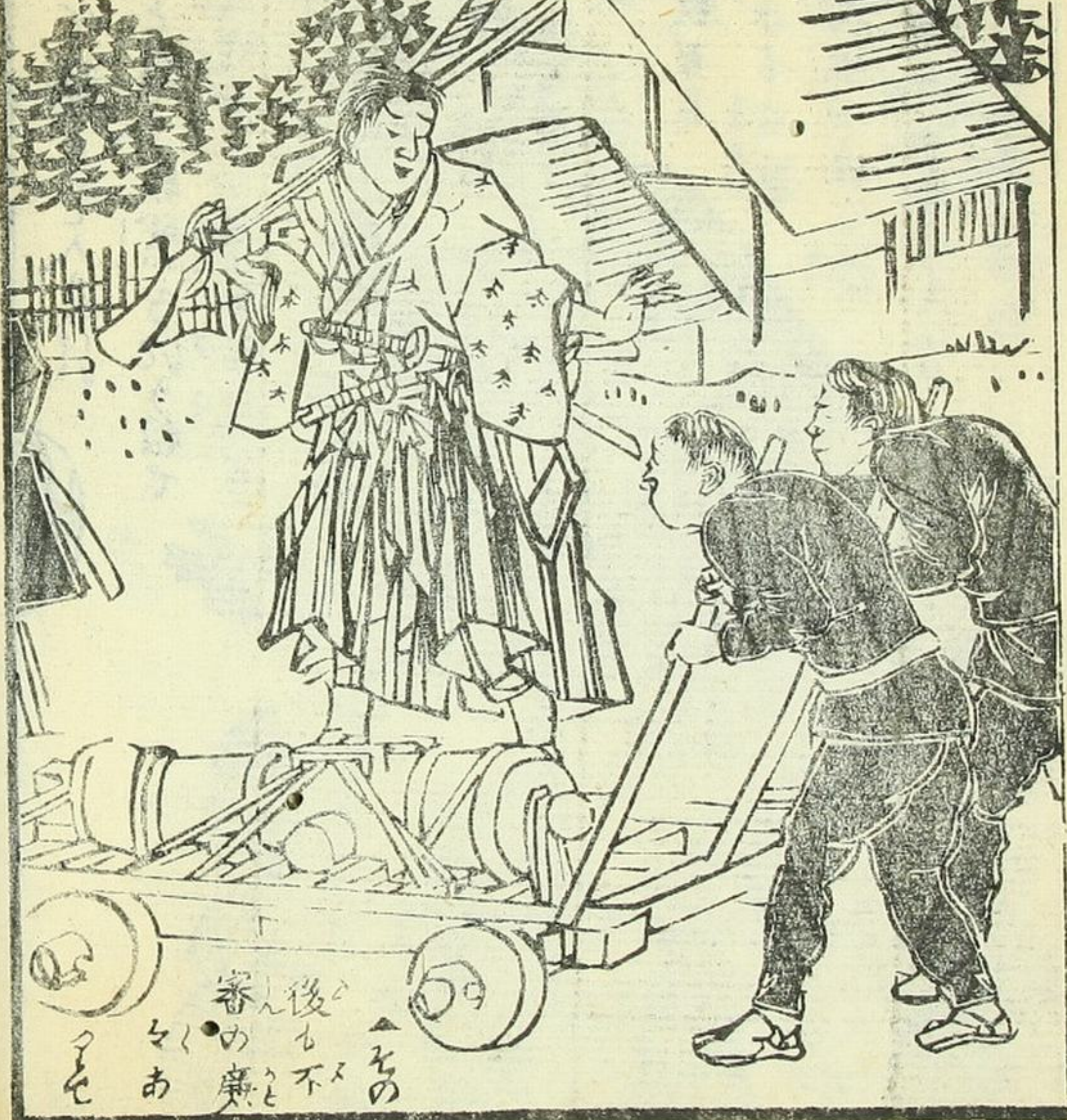
をささりやあゝ熊水士族も志

せりのあり筑前國甘木町へも

本士族屯集せりと佐土原の士族



三百人ほど延
岡の士族を
鹿兒島へ脱
走せり又羽
川鶴ヶ岡へ
鹿兒島士族
一名入るも回參
事の松平某の
宅を毎度集會
あり高知縣下の上
族らも何事あるう
諸方お出ま
鹿兒島縣士



△この
後不
審の
々々
と

族の吉川次
郎とける者
ハ先
年中
大久保内
務々の
執事
あり
酒
色又多
身持つと
大久保
家と暇とあり



探索
あり
案不違
鹿兒島暴
徒り荷擔
事頭
の
相引
ス
熊本
縣士

平山容その余
同縣士族四五
名何れも此度
の事件に
組し



吉川次郎



河村君ハ鹿兒島の士族らガ暴動せし
聞と共に林内勢少捕と共に暴徒らと
鎮靜せんと汽船のり込を免れ急いで
鹿兒島の港に着し暴徒を説解りて

のさんと出張の
手筈中及られ



返答

河村君
 小吏のあつ
 ましやうれ
 縣令より
 許可と
 ぼる上あつ
 ハ百謁せん左
 ぐ逢がう海兵を以て
 同入る本艦へ
 暴徒ハ
 △交り
 暴徒ハ



軍艦の左右のバツテイラ十艘へ
 海兵を固めろかゝる処へ暴徒共
 五六十人各帯刀袴鉾巻
 襦高袴と着しあれハ
 洋服の出立もありて小舟の
 うちの軍艦不迫のま
 頭取めき一人の男自
 四等警部と名のり
 河村君不面談の度
 船まで推参せり取
 次と有れ固め
 海兵これと聞まづ
 伺ひて指図せんと

此より大山縣令も此とて来り込まれ河村君と對面ありて
 暴徒へ入教加つりますく近くすこ来りてふよら軍艦とらふ
 べに形勢あるればても説諭の届くまどと内務少輔林君大山縣令
 とら照議ありやがて海兵
 とひに纏めすらすは
 出帆せんと鹿兒
 島港と出發
 ありて備後るる尾の道
 入港あり同所より電報あて
 締まるべくと通ドらまうと
 ○鹿兒島縣下暴動のよ
 英國領事ハき及び近傍ま
 襲撃せんもろりか
 と氣つひ
 有らん横濱ふ碇泊せ



河村海軍大補

英の軍艦モテスト号ハ横濱と出帆長崎へ入港せしハ既ハ長崎
 在留の英國人も同地と引払ひ右軍艦のあり
 込し者も多分ありと中りなり
 儲又鹿兒島裁判所同地縣
 廳の官員方も私学校生
 徒ホガ暴るる奉
 動と苦慮あり
 是何とを事
 件の細少多あり静め
 之れありと種々膝議
 何ふましがめとより血氣壯年ある生徒らもねが
 条理とて説諭のささげの理よふく必ハ無異に治るるらん
 裁判所より權少警部山崎某同縣廳よりも警部教名を色仕度



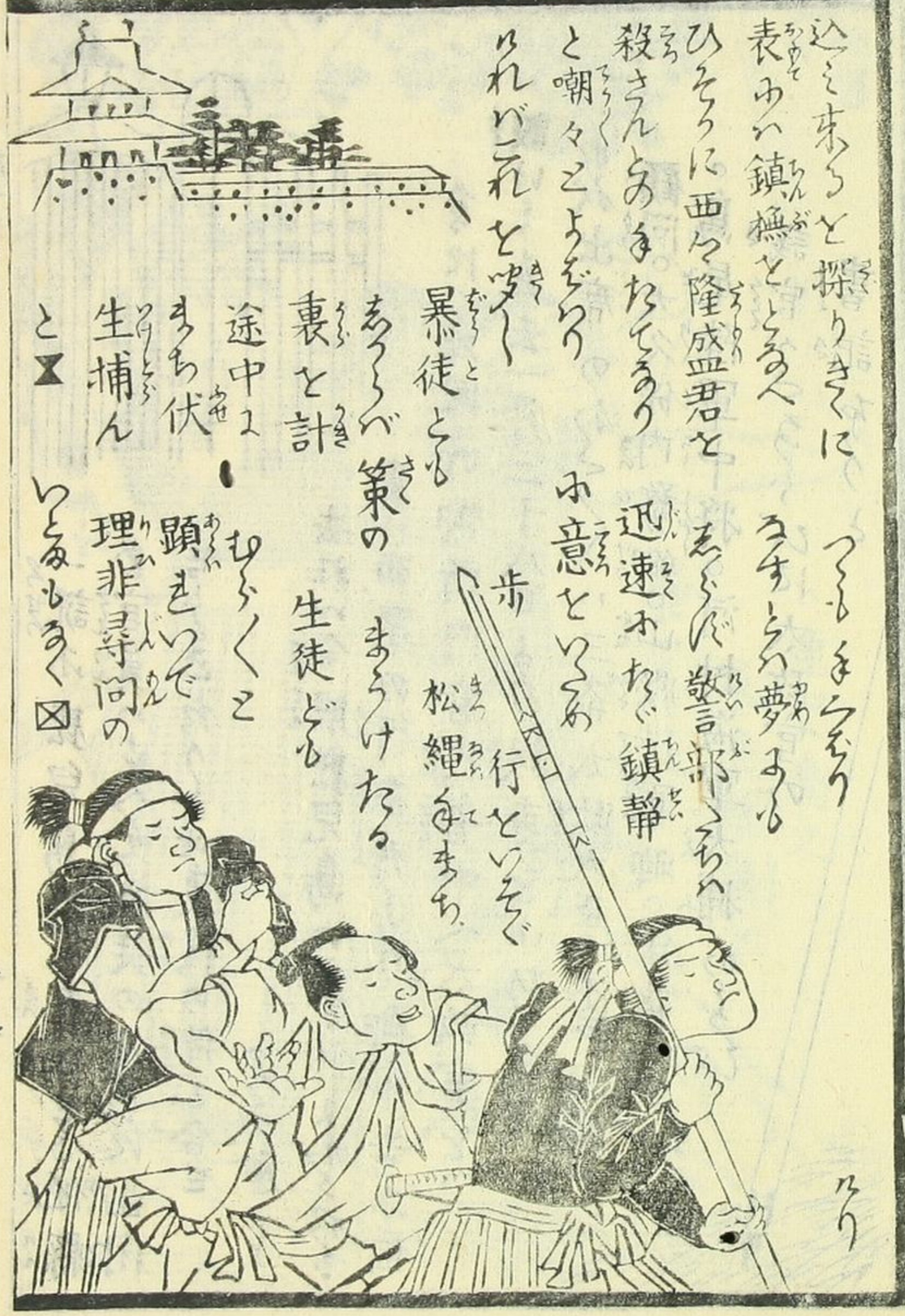
大山縣令



いさされらるる此とこ
 ともしのび〜〜
 漏らるや生徒方へ
 報知し〜る者
 ありてたゞ今とれ
 警言部救名のり

つもまらるる
 三すゝの夢みる
 迅速おた鎮静
 小意といふ
 歩行といふ
 松縄をもち
 生徒といふ
 途中といふ
 まち伏
 生捕ん
 と

一変あり
 眼義
 十重
 二十重
 あらり
 生れ
 私学校へ
 つまらぬ



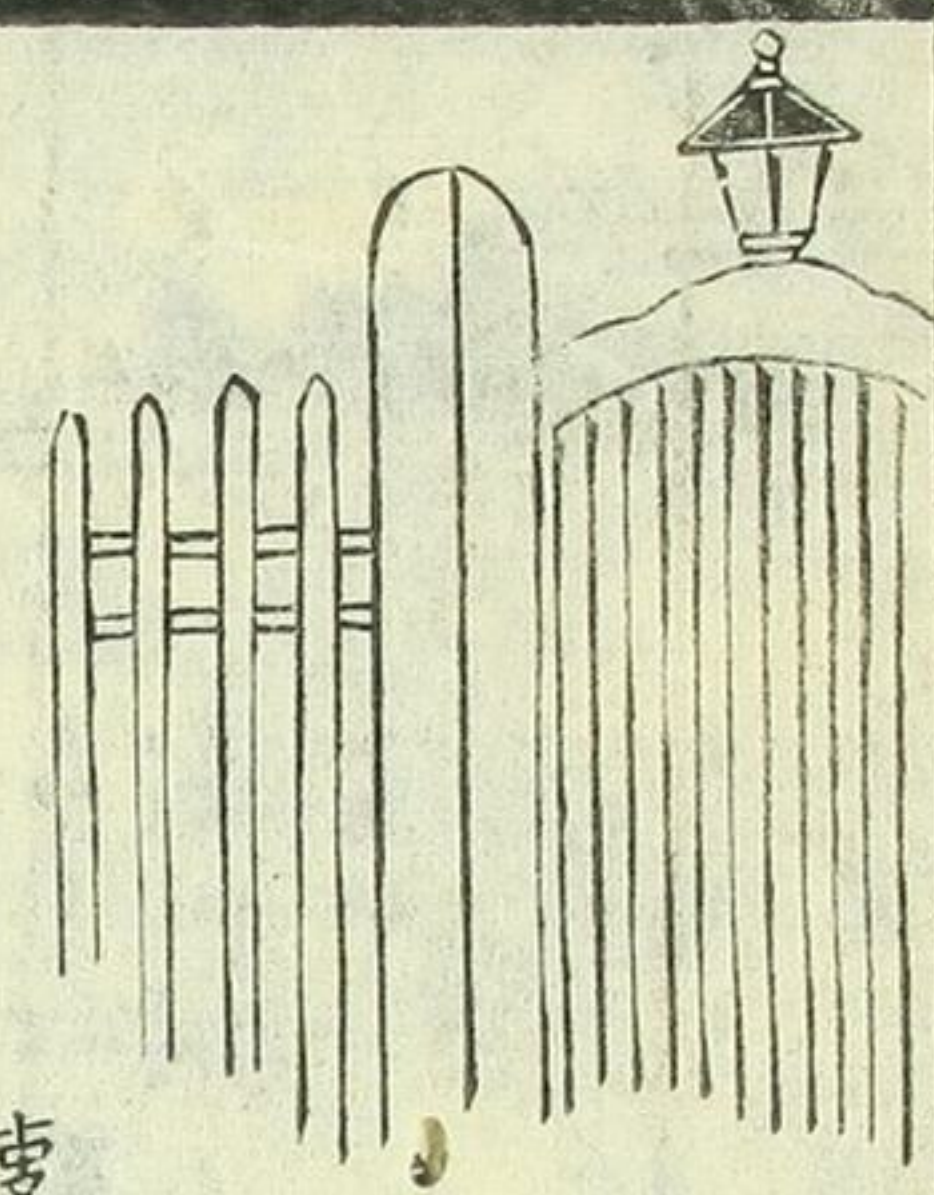
込と束らと探りききに
 表の鎮撫ととも
 ひそくに西々隆成四君と
 殺さんともたてあり
 と朝々といふ
 暴徒といふ
 裏と計
 途中といふ
 まち伏
 生捕ん
 と

つもまらるる
 三すゝの夢みる
 迅速おた鎮静
 小意といふ
 歩行といふ
 松縄をもち
 生徒といふ
 途中といふ
 まち伏
 生捕ん
 と

頭をいふ
 理非尋問の
 いともあり



鹿兒島之
暴徒縣廳を
襲つんとす



一説に鹿兒島縣へ在任せる他縣
の官員は是を以て激徒の爲めに閉
せしむたりと此更後の件と合せ

去れば今般鹿兒島の事件ユカれる
更ハ西京の行在所より御布告小相

よりつれ同所御所内宮内省中へ太政官と

設けし去一月二十日より議更といひつゝに

お成出席のかつぐい三條太政大臣。木戸内閣

顧問。大久保内務卿。山縣陸軍卿。伊藤工部

鳥尾陸軍中將。河村海軍大浦あつび

議官がごらふびに太政官の

書記ありと

さても私学校生徒らへ
暴威ましく熾るれば

近傍より頑固士族ら

ぬけく小まきろられバ
人救日々に増加ありぬ

さるバ兵の向ひさるさる此方
より押出さんとその準備

是より暴徒ら縣廳とあそむ

三々小まきろを近縣へ探出し
戦争の件ハ猶次編に記すべし

鹿兒島戦記初編下終



繪本太豊記

永島孟齋画
三編迄出版

繪本太閤記

切附本
同
画

新増本 西國奇談

為永春永
同
廿編マテ出版
画作

東京地本問屋

西國米沢町二丁目

加賀屋吉兵衛



篠田仙果錄

繪本
鹿兒嶋戰記
壹号

青盛堂梓

